

その10分は、どこから来るのか 文章A

年 組 番 名前 _____

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 高2～高3

この紙のゴール：同じ話題の2つの文章を読み、2人が「毎日の10分」を足し算と見るか置きかえと見るかで分かれていることを見つけて、対立点を1文で言えるようにする / 目安25分（本文＋設問）。本文はこの教材のための書き下ろし（初見用）です。

[1] Most plans to improve fail because they are too large. The person who decides to read for two hours a day reads for two hours once, and then not again. A better plan is smaller: ten minutes, every day, at the same time.

[2] Ten minutes is not chosen because ten minutes is enough. It is chosen because ten minutes survives. A plan survives a bad day, a late train, a long meeting; a two-hour plan does not.

[3] Small daily work also changes what you notice. After a month of ten minutes with a language, you begin to hear that language in places where you used to hear noise.

[4] And the cost is almost nothing. Ten minutes is the length of a walk to the station, or the time between one lesson and the next. It fits into the space that is already there. You do not have to give anything up to find it.

[5] Some people answer that ten minutes cannot produce anything serious. That is true for a week and false for a year. Skills are not built the way a wall is built, brick after brick at the same speed. Long, slow, regular work changes the ground under the wall.

[6] So the advice is not "do more." It is "do a little, on the day you least want to." Ambition is easy to feel and hard to keep. Ten minutes is easy to keep, and keeping is the whole game. Most people who give up did not lack ambition; they ran out of days on which their plan was possible.

〔語注〕 survive＝生きのこる・消えずに残る regular＝規則正しい ambition＝大きな志

本文には自由に書き込んでください。つなぎの語（But / Yet / however）に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

その10分は、どこから来るのか 文章B

年 組 番 名前 _____

文章Aと同じ話題について、Aを読んだ別の書き手が書いたものです。Aのどこに反対しているかを探しながら読みましょう。

[1] I have never met anyone who was harmed by ten minutes of reading. My difficulty is with one sentence: the one that says the ten minutes costs almost nothing.

[2] A day does not become longer because we have found a good use for part of it. The ten minutes comes from somewhere: from sleep, from a walk, from the ten minutes a student used to spend doing nothing in particular. Nothing in particular is not the same as nothing.

[3] Someone whose day is loose can add ten minutes and lose only loose time. Someone whose day is already full can only exchange. When we say that it costs almost nothing, we are describing the first person and speaking to the second.

[4] So I would keep the advice and change one line. A plan that adds should also say what it replaces. "Ten minutes of reading" is not a plan. "Ten minutes of reading instead of my phone on the train" is a plan.

〔語注〕 in particular=とくに何ということもない exchange=（動）入れかえる

Aと同じところに線、ちがうところに波線を引きながら読むと、対立点を答える設問がそのまま解けます。



その10分は、どこから来るのか 設問

年 組 番 名前 _____

文章A・B（前の紙）を見ながら答えてかまいません。

大問1 **それぞれの主張** AとBの筆者が、いちばん言いたいことを日本語で書こう（各20字以内）。

(1) 文章Aの筆者の主張 **思考・判断・表現**

4点

(2) 文章Bの筆者の主張 **思考・判断・表現**

4点

大問2 **対立点** 2人の意見が分かれている場所について答えよう。

(1) AとBは、毎日少しずつ続けることに力があるという点では一致している。では、どこで分かれているか。40字以内の日本語で書きなさい。 **思考・判断・表現** 6点

(2) Bの[2]段落は、Aのどの段落に対する答えか。段落番号で答え、その理由を20字以内で書きなさい。

思考・判断・表現

5点

大問3 **読み取り** 本文の内容に即して答えよう。

(1) Aの[5]段落で、筆者は反対意見をどう扱っているか。 **思考・判断・表現** 答え（ ） 3点

- ア 反対意見を事実と違うとして退けている
- イ 短い期間については認めたうえで、長い期間では当たらないと言いつけている
- ウ 反対意見を紹介したうえで、そのまま受け入れている
- エ 反対意見にはふれずに、自分の主張をくり返している

(2) Bの[3]段落 we are describing the first person and speaking to the second. の the second にあたるのはどんな人か。 **知識・技能** 答え（ ） 3点

- ア 一日にゆとりがあり、ゆかいな時間を10分足せる人
- イ 一日がすでに埋まっていて、何かと入れかえるしかない人
- ウ 毎日10分の読書をすでに続けている人
- エ 10分の読書に反対している人

解答

選択問題

大問3 読み取り		
(1)	イ	That is true for a week and false for a year. で、いったん認めてから時間の幅を変えて切り返している。
(2)	イ	直前の Someone whose day is already full can only exchange. が the second. 助言は前者の状況を述べながら、後者に向けて言われている、という指摘。

記述の採点

模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問1(1) 文章Aの筆者の主張

4点

小さくても毎日続く計画がよい（14字）

配点	その点を与える条件
2点	「小さい・10分」が入っている
2点	「毎日続く・続けられる」が入っている

大問1(2) 文章Bの筆者の主張

4点

足す計画は、何をやめるかも書くべきだ（18字）

配点	その点を与える条件
2点	「何をやめるか・何と入れかえるか」が入っている
2点	それを計画に書くべきだ、という形になっている

「10分に反対」とだけ書いた答案は0点。Bは[1]で10分の読書に害はないと認めている。

大問2(1) AとBは、毎日少しずつ続けることに力があるという点では一致している。では、どこで分かれているか。40字以内の日本語で書きなさい。

6点

その10分が、すでにある空きに入るのか、必ず何かと入れかわるのかという点。（36字）

配点	その点を与える条件
3点	Aの見方（すでにある空きに入る・何も手放さなくてよい）が書けている
3点	Bの見方（必ずどこかから取られる・入れかえになる）が書けている

「Bは10分の読書に反対している」は0点（立場の要約であって対立点ではない）。「Bは何をやめるかも書けと言っている」は3点—Bの主張だが、Aと並べた形になっていない。

大問2(2) Bの[2]段落は、Aのどの段落に対する答えか。段落番号で答え、その理由を20字以内で書きなさい。

5点

[4]／10分は必ずどこかから来るから（17字）

配点	その点を与える条件
2点	段落番号が [4] を指している
3点	理由が「一日は長くならない＝その10分は他の何かから取られている」の意味になっている

出題のねらい

定期テストに移すときの観点マップ

この2人は、毎日の小さな積み重ねに力がある、という点では争っていません。争点は**その10分がどこから来るのか**だけです。Aはそれを「すでにある空きに入るもの」と見て、だから何も手放さなくてよいと言う。Bは「一日は長くないのだから、必ず何かと入れかわっている」と返す。足し算と見るか、置きかえと見るか―同じ10分が、別のものとして数えられています。答案でいちばん多いのは「Aは10分に賛成、Bは反対」―立場の要約であって、対立点の特定ではありません。ここに手が届いた生徒は、Bの[4]（何をやめるかまで書いて初めて計画になる）がAの[6]（続けることがすべて）への正面からの答えになっていることまで読めます。

型	観点	テストでの使い方
それぞれの主張（記述）	思考・判断・表現	2つの文章の主張を1文にたたむ。3版共通の骨格で、ここが書けないと以降が全部崩れる
対立点の特定	思考・判断・表現	段3の芯。基礎は選択、標準・発展は記述。10分の出どころという一歩で分かれたことを言えるか
論の運びの読み取り	思考・判断・表現	譲歩から切り返しへの型と、Bがどの段落に反対しているかの対応づけ
語句の意味・下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は文脈からの推測、発展は和訳。構文と語彙の精度をここで測る
自分の考えを書く（英語）	思考・判断・表現	発展版のみ。両方にふれて50語。読み比べを表現につなぐ出口

大問I（それぞれの主張を1文で）は3版とも同じ問いです。配り分けでも、ここだけは同じ力を測っています。

3つの版の使い分け

論題と対立の中身は3版共通で、変えているのは英文の長さや答え方です（基礎＝対立点を選ぶ／標準＝日本語で書く／発展＝日本語の記述に英語の意見を1問足す）。同じクラスで配り分けでも、答案は同じ観点で並べて読めます。